

Sustainable Report No.171

食品ロス削減と 私たちの生活

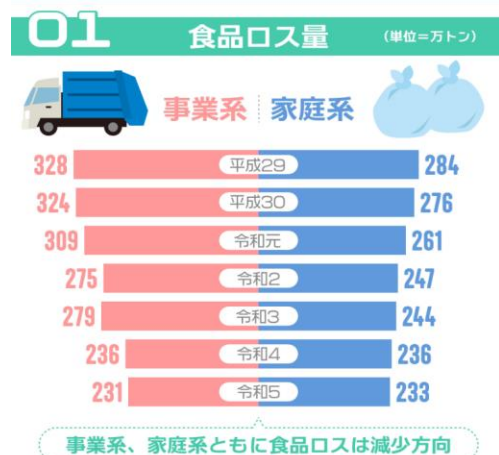


サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取り組みを行っています。

■ 課題の現状／経緯／影響

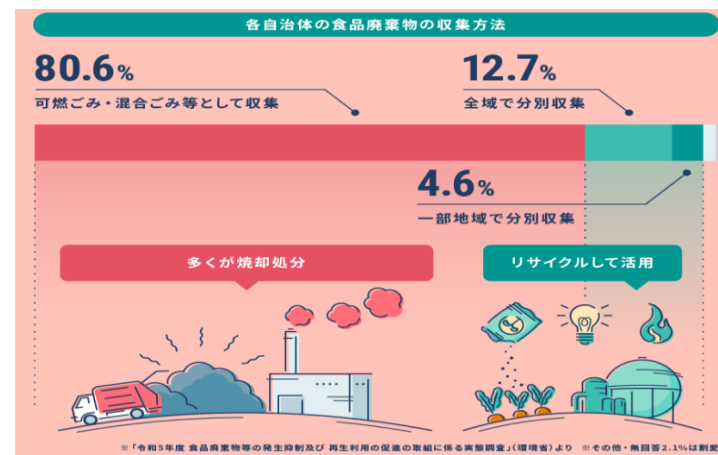
- 食品ロスの焼却処理により、多くの温室効果ガスが排出され、地球温暖化を**促進**してしまっている。
- 発生する原因として、**生産過程**で発生する食品の**欠損**、形や重量などが**基準に満たない規格外品**ができること。また、食品の過剰な**仕入れ**や納品期限の**超過**などが影響していることが挙げられる。
- また、食品ロスは一般的に**焼却処理**されることが多く、その過程でメタンガスが発生する。このメタンガスはCO2の**約25倍**もの温室効果があるため、地球温暖化を加速している。

■ 日本の食品ロス量の推移



出典：農林水産省

■ 焼却処理される食品ロスの割合



出典：環境省

▶ NEXT：食品ロス削減への第一歩 食の支援を届ける仕組み

■ 実行者／解決事例／残る課題

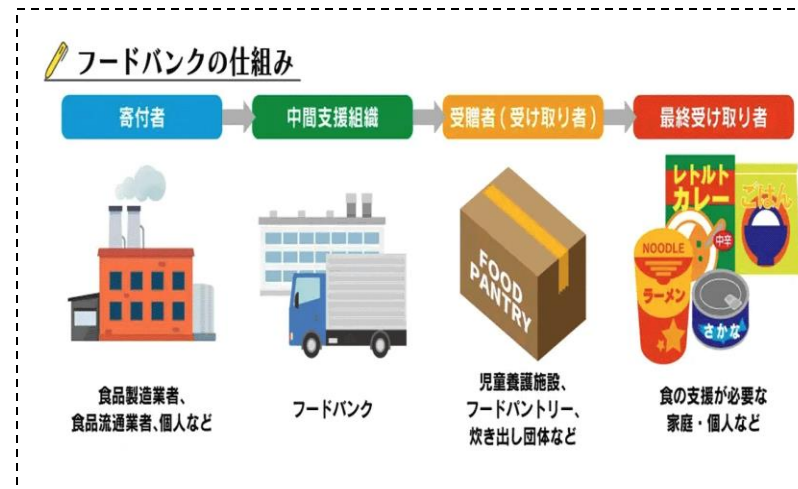
- セブン&アイホールディングスでは食品廃棄物を削減するためには、発生自体を抑制する取り組みが重要だと捉えている。
- セブン-イレブン・ジャパンでは、閉店・改装時に余剰となった加工食品のフードバンク団体への寄付を2017年から開始する。(支援団体・施設に分配されている)
- 課題として、フードバンクでは、活動規模によって寄贈される食品の種類や数量を食の支援を必要とする人と適切にマッチングすることが課題として挙げられる。

■ 食品ロスの発生を抑制する取り組み



出典：株式会社セブン&アイ・ホールディングス

■ フードバンクの仕組み



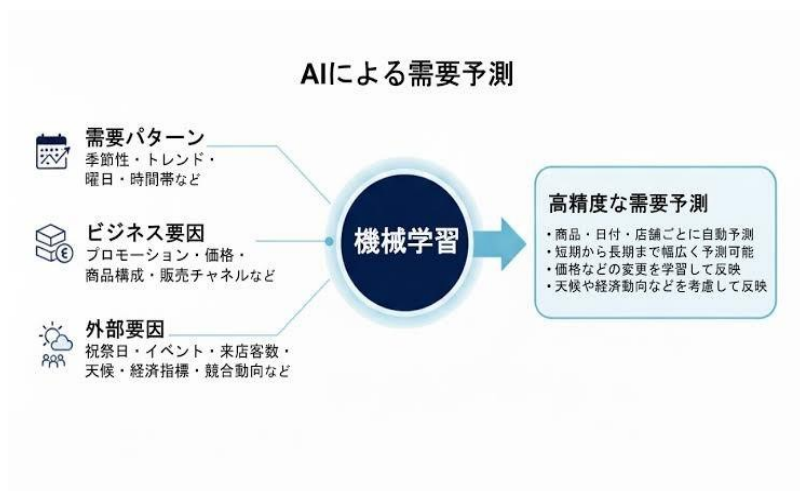
出典：朝日新聞SDGs ACTION!

▶NEXT：需要予測システムの導入／AIとの付き合い方

■ 残る課題の原因／理想／企業施策

- **近年の物価高騰**により企業や個人が寄付に充てられる余裕が減少している一方で、食料支援を必要とする世帯は増加しており、需要と供給のバランスが崩れている
- この課題を解決するためには企業や家庭で廃棄される「まだ食べられる食品」が適切に**回収・管理され**フードバンク活動を通じて有効活用することが重要である。
- AIの**需要予測システムの導入**による在庫の**適正化**を実現していく中で、発生してしまう廃棄食品と支援を求めるユーザーの**受取ニーズ**をAIで分析・マッチングしていくことが食品ロスの削減につながると考えられる。

■ 需要予測システムの仕組み



出典：Centric Software

■ 需要予測システムの運用例



出典：Qast

本レポートをご覧いただき、ありがとうございました

■ 参照・引用資料

- 農林水産省,「食品ロス削減の現状」,2026年4月12日食品ロス削減の現状：農林水産省
- 日本財団,「世界で捨てられる食べ物の量、年間25億トン。食品ロスを減らすためにできること」,2026年4月11日
[世界で捨てられる食物は年間25億トン。食品ロスを減らすためにできること | 日本財団ジャーナル](#)
- 環境省,「もったいないだけじゃない、食品ロスと環境問題」,2026年4月19日
- (「もったいない」だけじゃない、食品ロスと環境問題 | ecojin (エコジン) : 環境省
- (株)セブン&アイ・ホールディングス,「食品ロス・食品リサイクル対策」,2026年5月15日
- [食品ロス・食品リサイクル対策 | サステナビリティ | セブン&アイ・ホールディングス](#)
- 朝日新聞,「フードバンクとは？ 仕組みや寄付の仕方・もらい方、課題や事例を解説」,2026年5月15日[フードバンクとは？ 仕組みや寄付の仕方・もらい方、課題や事例を解説：朝日新聞SDGs ACTION!](#)
- Cast,「需要予測AIとは？ 仕組みや導入の流れ・メリットとデメリットを解説」,2026年5月15日 (需要予測AIとは？ 仕組みや導入の流れ・メリットとデメリットを

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的著作権は小川電機株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。